日本聖公会 全国青年ネットワークニュース

辺野古に参加に続く

今こそ注目が必要

最近また『さとうきび畑』をよく聴いています。この歌を静かに聴いているとまず沖縄の広大なさとうきび畑の風景が頭に浮かび、そして何とも言えない寂しさと悲しい気持ちに包まれて行きます。

ざわわざわわざわわ
広いさとうきび畑は
ざわわざわわざわわ
風が通りぬけるだけ
今日も見わたすかぎりに
緑の波がうねる
夏のひざしの中で…
むかし海の向こうから
いくさがやってきた…
あの日鉄の雨にうたれ
父は死んでいった…
ざわわざわわざわわ
この悲しみは消えない

（基地建設に揺れる沖縄・名護の海岸で。）

この歌は沖縄の経験、沖縄の人たちの思いをよく表わしています。沖縄戦ではじつに二十三万を越える人命が失われました。それぞれの家族は悲しみに暮れました。愛する家族を失って喜べる人などいるはずがありません。そしてこの悲しみは未だに消えていないのです。

その悲しみの消えない場所に今は数々の巨大な米軍基地が存在し、新たな戦地に向かって戦闘機を、また多くの兵士たちを送り出しています。これでは悲しみが消えるどころかますますその傷口を大きく広げているのではないでしょうか。

そして現在、日米両政府は名護市辺野古沖に新鋭の巨大な米軍基地建設を進めようとしています。

正義と平和委員会では、今年四月に「辺野古基地建設、特にボーリング調査強行に反対します」との声明を発信。またこれまでの沖縄週間／沖縄の旅での学びをも背景とし、今年七月から沖縄教区および日本聖公会青年委員会の協力を得て、特に青年たちに辺野古の基地建設を止める行動への参加を呼びかけています。最近になってさらに事態は大きく変化していますが、今こそこの動きに注目し主の平和実現のために取り組んでいきたいと思っています。皆さんもぜひご一緒に祈り、取り組んでいただければと思います。

（辺野古での座り込み）

今年七月より、現地コーディネーターとして、辺野古での座り込み活動に参加している東京教区の神崎直子姉よりのメッセージをお読みください。（管区正義と平和委員会／柴本孝夫）

辺野古・現地リポート
東京教区：神崎　直子

十月二九日の在日米軍再編協議の中間報告で、普天間基地移設のための代替地として挙げられていた「辺野古沖」が白紙撤回されました。約九年前から地元のお年寄りを中心に座り込みをし、昨年四月からは辺野古漁港入り口にテント村を立ち上げ、実際に海上で埋め立てのための作業を阻止するという一連の行動が、政府の決定を覆させる結果になったのです。

全国の、全世界の支援あって成し遂げることの出来たことでした。

ところが、代わりに代替地として挙げられたのが、「キャンプシュワブ沿岸」です。これは沖ではなく、辺野古崎周辺を陸続きで埋め立てる案です。七月からテント村で座り込みをしている私が感じるだけでも、この新しい案には問題点がたくさんあります。

（米軍基地建設を止めるカヌー）

辺野古をはじめとする周辺集落に滑走路自体が接近すること。埋め立てられるのは、絶滅危惧種のジュゴンが餌を食べに来る藻場そのものだということ。静かで素朴な集落が点在する本島北部の東海岸側が、飛行のルートに重なり騒音・危険が増すこと。辺野古崎の向こう側、大浦湾は希少な珊瑚やその他の海洋生物の宝庫であること、など。本島北部は山間地で、過疎地域ですが、だからこそ豊かな山海の資源に溢れている地域です。この豊かな自然をこそ生かして、産業や観光を発展させていきたい、と言う地元の人々の声を私はたくさん聞きました。ジュゴンとウミガメの集う海は、きっと世界中から人々が訪れるほどの魅力になり得るでしょう。

（辺野古の海岸で演習する米軍の戦車）

本島中南部の、都会化した人口密集地での米軍基地の危険性は言うまでもありませんが、過疎地にたらい回しにすることで本当に沖縄の負担軽減になるのでしょうか？戦後、沖縄に過重な米軍基地を負担させてきたことは、日本全体の責任として考えるべきであり、そうなると他人事ではありません。論議が全国で取り上げられるようになった今がチャンスだと思います。今、沖縄で（また、全国各地の米軍基地・自衛隊基地で）何が行われようとしているか知り、考えてください。

辺野古のテント村では、在日米軍再編協議の最終報告が出される予定の二〇〇六年三月まで継続して座り込み行動を行います。一度、政府の案を覆させたように、もう一度、この案を覆すべく、共に行動していきましょう。

現在も、辺野古にあるキャンプシュワブからは海兵隊員がイラクに派兵されています。イラクの人々から見れば日本は加害者だということを、私はここに来て初めて実感しました。どうぞ皆さんも、辺野古を訪れてください。美しい海を見て、同時に米軍の演習の恐ろしい音を聞いてください。そこで感じたことを周りの人に伝えてください。「この案はおかしい」という声を、政府に届けるためには、もっともっとたくさんの声が必要です。沖縄からだけではなく、全国から出されるべき声が。

（10月30日沖縄県民総決起大会）

（写真はいずれも神崎さんの撮影によるもの）